

アルハンブラ宮殿へ

欧州に居ながら最高級のイスラム建築美を堪能できるのが、世界遺産に登録されたスペインのアルハンブラ宮殿です。9世紀末に砦として作られてから、しばらくは忘れ去られていましたが、イベリア半島に建国されたイスラム王国が、13世紀前後にアルハンブラ宮殿を拡張しました。



【エメラルドの中にあるパール】とMoors(ムーア人=イベリア半島に定着したムスリムの人々)の詩の中でうたわれているように、屋内の色使いと細かい模様の美しさはヨーロッパにあるイスラム文化装飾の中でも、わざわざ飛行機に乗ってでも見る価値があるものです。



宮殿は丘の上に建てられていて、シエラネバダ山脈を背景にアルバイシンと呼ばれる街を見下ろす位置にあります。アルハンブラ宮殿は宮殿であると同時に城塞でもあるので、外部には敵を見据え、その攻撃から城を守る役割の塔や壁を備えながらも内装はぜいたくで、外側からは全く想像が付かないほど内部は豪華です。

庭園には何百種類もの植物が植えられています。今年5月から9月初旬まではほとんど雨が降らなかったグラナダの街ですが、シエラネバダ山脈から水を引いているため、宮殿内の庭園の噴水や滝、池には水が豊富なのです。

今から何百年も前にそのような技術が完成されていたことは驚くべきことです。夏は外気温が30°Cを超えても中はひんやりしていますが、冬に行くとかかなり寒いようで、それでも太陽が取り入れられる中庭と大理石のおかげで、日が差せばそれらの場所はほっこりと暖かい、とのガイドさんの弁でした。

ブリュッセルから飛行機で3時間、マラガ(Malaga)の空港に到着してから、バスやタクシー、電車などでグラナダ(Granada)へ入ります。格安の航空会社を利用しますと、時期によっては相当安価に行くことができます。

マラガ空港からアルハンブラまでの往路はタクシーを、復路はバスを利用しました。公共交通機関に比べると、タクシーはもちろん高額ですが、知らない土地に初めて入る場合には使うことにしています。

バスはALSAという会社が空港からグラナダのバスセンターまで直行します(途中、電車の駅に寄ってお客さんを乗せる場合もあります)。料金は15ユーロぐらいで、ネットを通し事前にチケットを購入すると確実ですが(www.alsa.es)、乗る時間が決まっていない場合には、バス乗場での購入ができます。電車は利用しませんでした、バスよりも時間がかかるそうです。



アルハンブラ宮殿に行く前に、入場券をネットなどで購入しておかないと、当日に行っても買えなかったり、長蛇の列の中で待つ可能性がありますので、事前購入がお勧めです。

チケット購入は様々なサイトがあるようで、入場券だけやツアーガイド付き、昼や夜のツアーとより取り見取りです。ガイドさんのコメントでは、「アルハンブラ宮殿に人が住んでいた時は、照明などはなかったもので、夜のツアーというのは当時彼らが見ていたものとは違っている」ということでした。

入場券は下記のサイトで購入しました。行きたい日をクリックし、どのツアーかを選ぶようになっていますが、ツアーごとに別の旅行会社にリンクしているようで、アルハンブラ宮殿が運営しているわけではありませんでした。

www.alhambradegranada.org/en/info/buyalhambratickets.asp

上記のサイトから選んだツアーは、下記の会社のものでした。www.granavision.com/Default.asp?idioma=

ガイドは、英語が上手なグラナダの人で、丁寧な説明をしてくれましたが、できれば日本語で聞きたかったです・・・。

日本人向けツアーもたくさんあるようですので、日本の旅行会社に相談してみても良いかもしれません。

グラナダ中心部からアルハンブラ宮殿へバスで行く場合は、路線番号がC3のとても小さなマイクロバスに乗ります。歩いても行けますが、丘の上にある宮殿ですので、登っていくことになります。

C3のバスに乗るのは、Plaza Isabel La Catolicaというイザベル女王とコロンブスの像がある広場から、Calle Pavanerasという通りにある「Santa Escolastica 2」という名のバス乗り場で、Google Mapで見つかります。

バスの乗車券は車中で買え、数ユーロですので、小銭を用意した方がよいでしょう。

アルハンブラ宮殿は、大まかに3つに分かれていて、入場場所はチケットによって異なります。入場口は3つあり、チケットに書いてある時間通りでないに入れてくれないようで、規則は厳しいです。

チケットを持っていなくても、カルロス宮殿(Palacio de Carlos V)などには入ることができますが、是非見て頂きたいのは、やはりナスル朝宮殿(Palacios Nazaries)です。

地図上では、西側(左側)から
1 アルカサバ(Alcazaba)
2 ナスル朝宮殿(Palacios Nazaries)
3 ヘネラリフェ(Generalife)
があります(<http://granadainfo.com/alhambra/map.htm>)

上記それぞれに入場券が必要で、入り口も別々です。それ以外の場所は、カルロス宮殿のようにチケットが無くても見られます。

様々な旅行会社がツアーを企画していますが、私が利用したグラナヴィジョン(Granavision)社について記してみましょう。

購入したのは、ナスル宮殿とヘネラリフェのコンビネーションチケットだったようで、アルカサバはルートに入っていませんでした。チケット購入時に自分の好みに合わせてツアーを選択した方がよいでしょう。また、ガイドなしのツアーもあるはずですが、

私は、てっきりアルハンブラ宮殿が経営していると思っていましたので、チケット売り場のそばに行って、係員に購入確認書を見せたところ、別の場所での集合と言われ、そこから少々歩いた場所にグラナヴィジョン社のカウンターがありました(Visitors Centerという名でGoogle Mapにあります)。



集合時間は10時となっていて、私は直接そこに行きましたが、ホテルへ迎えに来てくれるオプションもあるようです。ただ、果たして時間通りに迎えに来てくれるかどうか、日本人とは時間の感覚が違うので、気を付けた方がいいかもしれません。その店舗(事務所とカフェがある)には、集合時間が近くなるとツアー参加者が何十人と集まってきました。

参加者は2つのグループに分かれ、私のグループ(ガイド1人とお客15人くらい)は先発で、ナスル宮殿から10時半に入場というスケジュール設定だったようです。

ナスル宮殿は、各部屋が狭い廊下でつながっているのが特徴で、それぞれが違っているので、たつぷりと内装の美しさを堪能できます。

内装の装飾形態は、Stucco(スタッコ)と呼ばれる漆喰細工、Alfraje(アルフラフェ)という木製のパネルの天井、木や石膏、陶器などで構成された、laceria(ラセリア)という特徴的なイスラム建築装飾、アラベスク模様のモザイクやタイルと、細かいところを見てゆくと、時間は直ぐに過ぎてしまうかもしれません。



通常、壁面の上部に装飾が施されていて、宮殿をたたえるアラビア語の詩が刻まれていますので、宮殿の中を歩くときは、目線を横から上へ向け、見逃してはならない天井の美しさもお忘れなく。

全く行くつもりがなかったアルハンブラ宮殿でしたが、周りのベルギー人が「行ってみるべき!」と口々に話

るので、訪れてみたら大正解でした!

ベルギーからそんなに遠くないアルハンブラ宮殿。「百聞は一見に如かず」と言うように、ネットなどに載っている写真より、実物は何倍も素晴らしいと思えるはずですが、冬休みや春休みにぜひお出かけくださいね。

